～速報版100号達成記念～

Newspace

郡山東高校新聞 速報版　号外

編集・発行
郡山東高等学校新聞部
発行人 松本　優衣
編集人 多田野朱理
〒963-8832　福島県
郡山市山根町13-45
電話 024-932-0898

速報版通巻100号記念

郡山東高新聞 速報版 1号
入学おめでとう
新入生280名 郡山東高の門をくぐる
今春着任された先生方のご紹介
郡東女声4位 混声と大会初W金賞
声楽アンサンブルコンテスト全国大会

クラス旗　仮装パフォーマンス

→文化祭を伝える速報版23号文化祭号（右）　入学式を伝える速報版1号（左）

新聞部の歴史を追う

郡山東高校新聞部は今月をもって速報版発行100号を超えた。それを記念して、今号は新聞部の活動をより多くの人に知ってもらうため、新聞部の成り立ちやこれまでの歴史、現在の活動などを通して新聞部と新聞のを紹介する。

新聞部が郡山東高校学校新聞「Newspace」第1号を発行したのは2012年だ。そして、今月、100号を迎えた。

2012年に誕生した本新聞部の歴史を知るために当時の顧問であった現郡山北工業高等学校報道委員会顧問の吉田義仁（よしひと）先生（60）に話を聞いた。

吉田先生は2009年から2016年までの7年間東高で教鞭を執った。東高では2回担任を受け持ち、初めは運動部の顧問をしていた。

2011年、東日本大震災が起きた年、4月の人事が8月にずれ込み、吉田先生は8月から新聞部の顧問となった。当時、郡山東高校新聞部は部員がおらず、廃部の危機にあった。吉田先生は教師となる前、新聞記者として働いており、震災時、「この出来事を記録しなければ」との思いを強くし、前任の顧問の異動を受け、自ら顧問を志願した。

当初は部員がいないため、最初は担任していたクラスの生徒や顧問をしていた運動部の生徒の協力を得て、新聞作りが始まった。

翌年、1年生が13人入部し、東高新聞部は本格的に再興に向かった。当時の新聞部の雰囲気を吉田先生は「積極的な生徒が多く、新しい文化を作ろうという意気込みを感じた」と振り返った。

東高新聞本紙には「ふくしまリポート」という東日本大震災の記憶を風化させないために作られた独自の特集記事がある。10年近く経つ今現在も毎号力を込めて作成している。これは吉田先生が顧問をした当初からある紙面だ。ふくしまリポートについて吉田先生は「高校生が語り部として、東日本大震災を自分たちの視点から伝え、そしてその記憶を残していくという点でとても重要な役割を果たしている」と真剣な表情で語った。

現在、吉田先生は福島県高等学校文化連盟 新聞専門部委員長として福島県内の高校新聞部のとりまとめ業務を行っており、県内の新聞部の活動の活性化をサポートする立場でもある。（翠玉）

令和	平成			昭和
2021	2018	2016	2011	1949
速報版100号到達	菅家洋平先生が顧問になる	難波幸生先生が引き継ぐ	速報版発行開始 吉田義仁先生が郡山東高校新聞部を再興	郡山女子高校新聞発行開始

→新聞の良さについて語る吉田先生

信頼される新聞に

新聞を作る上で大切なことは正確な情報を伝えることだ。新聞は読む人に信頼されなければいけない。新聞は読む人を元気にしたり、幸せにしたりすることもできる。吉田先生が大事にしていることは「思いをもって思いを伝える」ということだ。取材した相手の「思い」を、取材した側が「伝えたいという思い」をもって新聞を作ることが重要だ。新聞の良さは、活字自体の持つ温かさや記録性だ。新聞はネットの普及により、なくなるとも言われていた。しかし、実際は今も残っている。「新聞は毎日読まれるため、いつかは捨てられる。しかし、新聞を読むことを楽しみにしている人がいるということは、何よりうれしいことだ。新聞をゴミ箱に捨てられることは気にならない。ただし、読んでもらえないことはとても悲しいことだ。読んで、何かを感じてもらえればそれで十分だ」と吉田先生はほほえんだ。

↑部の今後の活動について話す菅家先生

福島県内の新聞部の活動について「福島県の高校新聞には伝えるべきものがある。伝えることで、誰かを元気にする。また、記録に残すことも大事にしてほしい」と部員に笑顔で語った。

取材に同行した現東高校新聞部顧問の菅家洋平（かんけようへい）先生（43）は「先輩方の思いを受け継いでいくことに、喜び、そして使命感を感じてほしい」と部員に話した。（紫）

過去から現在に継ぐ

新聞部は現在1年生6人、2年生8人の合計14人で活動している。新聞部では主に2つの種類の新聞を作っている。

1つ目は速報版といって学校行事や活躍した部活動の大会結果などを載せる新聞だ。新聞の記事の中にはひと記事やコラムというものがある。ひと記事とは、生徒会長など一人を特集し、その人自身のホットな情報を書く記事だ。コラムは部員の実体験や心に残った出来事について書く記事だ。

2つ目は本紙というものだ。新聞部では年に3回本紙を発行しており、基本的に4面構成で作られている。1面には社会問題について、2面にはふくしまリポートと題した東日本大震災に関するもの、3面は校内をメインとしたもの、4面は社会で話題となっていることなどを取り上げている。

東高新聞の強みは取材力だ。そのため1つのテーマをさまざまな視点で書かれた記事を読むことができる。また新聞部の活動は取材だけでない。記事を書いたり、レイアウトの構成を考えることも仕事の1つだ。また確かな情報を伝えるため記事の確認や書き直しなど地道な作業も多い。しかし新聞が発行できたときの達成感は部員たちの活力となっている。

新聞部は8月に審査される全国大会に向けて、日々新聞作成に取り組んでいる。今後の目標（もくひょう）について部長の松本優衣（ゆい）部員（2年）は「新聞を読んで少しでも東生の皆さんに新聞部のことを知ってもらえればうれしい」と話した。（紅玉）

このたび新聞部は記念すべき100号を迎えました

新聞部はこれからもたくさんの人を元気づけられる新聞を作っていきます。

郡山東高校新聞部一同

東照手記

新聞部はよく「堅そう」「真面目そう」と思われがちだ。私も新聞部に入る前はそう思っていた。

しかし、実際にはそのイメージとは真逆な部活動だ▼新聞部には個性豊かなメンバーがそろっている。2年生には初対面の時と印象が大きく変わった人がいる。例えば、静かそうに思えた人が今では新聞部1明るい人だったり、逆に新聞部っぽくない人がすごく真剣な人だったりなど私の中でイメージが変わった。他にも、天然な人、素直な人、社交的な人、おっとりしている人、独特の雰囲気を持つ人がいる▼今では8人全員仲が良いが、最初のころは価値観の違いなどがあり、それほど仲が良くなかった。そんな私たちが仲良くなり出したのは1年の冬にあった新聞部での合宿だった。合宿では先輩から新聞の作り方から カメラの使い方など多くのことを学んだ。また私が一番うれしかったのは普段なかなか話せていなかった先輩や同級生と話すことができたことだった。同級生とは自分の好きなものなどのたわいのない話をしてどんどん仲が深まっていくように感じた。そして今では困ったときや不安に感じたときに相談しあえる存在だ▼一方、1年生にはしっかり者から少し不思議な子までいていつも和気あいあいとした雰囲気がある。私は時々1年生の仕事の速さに驚かされる。普段は1年生同士楽しそうに話したり、笑いあったりしているが仕事があると真剣にできるメリハリの良さも1年生の魅力だ▼新聞部は今号をもって100号を迎えた。新聞部ではこれからも多くの人に興味をもってもらえる新聞を作っていきたい。そしてこのメンバーで全国に行けるようこれからも精進していきたい。（紫衣）